

賃貸借仕様書

- 1 賃貸借の名称 佐久間病院画像保管システム賃貸借
- 2 賃貸借の場所 浜松市天竜区佐久間町中部18番地の5
- 3 賃貸借期間 令和8年4月1日から令和13年3月31日まで
- 4 賃貸借の概要 本業務では、浜松市国民健康保険佐久間病院で現在使用している画像保管システムを富士フィルム製「SYNAPSE LEAD」に更新し、必要な機器を賃貸借するもの。
令和8年4月1日に稼働できるよう機器のセットアップ、既存データの移行、設置、システム使用者への操作説明を完了するものとする。
5. 賃貸借物件 賃貸借物件については、別紙1「佐久間病院画像保管システム賃貸借機器等一覧」を参照すること。
6. 賃貸借条件 賃貸借の条件は次のとおり。
 - (1) 正常な管理のもと、導入後1年以内に生じた故障及び発見された瑕疵については、無償修理又は取り替えること。
 - (2) リース期間中に故障や動作不良などが生じた場合は、修理又は交換が日本国内において速やかに行えること。
 - (3) リース期間満了後、機器のデータ消去及び撤去については賃借人が実施する。
 - (4) 画像保管システムの仕様は別紙2「画像保管システム仕様要件」のとおり。なお、システムの詳細については以下の者に問い合わせること。
富士フィルムメディカル株式会社 南関東支社 浜松営業所
〒430-0917
浜松市中央区常磐町145-1 大樹生命浜松ビル8F
電話：053-413-0171
FAX：053-453-0800

佐久間病院画像保管システム賃貸借機器等一覧

品名	型式	数量
サーバ ハードウェア		
SYNAPSE LEAD_10TB (EOSL_7Y)	SYNAPSE LEAD_10TB (EOSL_7Y)	1
UPS		
PET751J1CA/F(FMS62)	PET751J1CA/F(FMS62) EOSL_7Y	1
ソフトウェア		
Endpoint Protection ExSPライセンス	Endpoint Protection ExSPライセンス	3
クライアントソフトウェア		
SAI viewerライセンス	SAI VIEW LIC FOR LEAD	1
SAI viewer配信ライセンス	SAI VIEW DIST LIC -10	1
Windows Client Access License (5CAL)	Windows Client Access License (5CAL)	4
ワークステーション		
SYNAPSE管理者端末_ノートタイプ°	SYNAPSE管理者端末_ノートタイプ°_22C	1
その他		
統合型 IP-VPN(閉域網)	統合型 IP-VPN(閉域網)	1
医療クラウド		
ソフトウェア		
画像解析Agent ソフトウェア（同居）	画像解析Agent ソフトウェア（同居）	1
参照用ビューワ／参照用モニタ (CL-22C)		
クライアントソフトウェア		
Windows Client Access License (5CAL)	Windows Client Access License (5CAL)	2
ワークステーション		
参照用ビューワ_PC端末 (モニタレス)	参照用ビューワ_モニタレス (1面向け) 22C	8
液晶ディスプレイ	EIZO 2M	8

※サーバーおよび管理者端末の仕様は別紙1-2「サーバー・管理者用端末スペック一覧」のとおり

サーバー・管理者用端末スペック一覧

サーバー : SYNAPSE LEAD v1.1 (10TB)

メーカー	ニューテック
機種	Ness1300
シャーシ	3.5インチ シャーシ 最大 2 ホットプラグ ハードドライブ 搭載可能 M.2 SATA SSD x1搭載可能
CPU	インテル Xeon E-2436 6C/12T
メモリ	64GB (32GB x2)
RAIDコントローラ	NTC製ハードウェアミラーリングコントローラ
HDD構成	16TB ハードドライブ SATA 6Gbps 7.2K 3.5インチ ホットプラグ x2 240GB M.2 SSD x1
RAID	RAID1
DVDドライブ	なし
オンボードNIC	1Gbps x2 IPMI管理ポート x1 ※iDRACのような監視用ポート
増設NIC	なし
その他増設パーツ	なし
電源	250W 内蔵シングル電源 AC 100~240V 50/60Hz
電源ケーブル	AC電源コード x1
COMポート	標準搭載
USBポート[前面]	なし
USBポート[背面]	USB2.0 x2ポート、USB3.0 x2ポート
コンソール	マウス (BSMOU050MBKZ) 、キーボード (BSKBU100BKZ) 17インチモニタ (LCD-AD173SESB-A)
OS	Windows Server IoT 2022 Standard (16 Core) x1
CAL	5デバイスCAL
その他構成品	なし
バックアップデバイス	RDX QuikStor、IODATA LANDISK HDL-AAX6W
バックアップソフト	FMSBackup

富士フィルム SYNAPSE LEAD 管理者端末

モデル	CL-Model122C
モデル名	HP Pro SFF 400 G9
シャーシ	省スペース型
CPU	Intel(R) Core(TM) i5-14500(14C/2.6GHz/24M)
チップセット	インテル(R) Q670 チップセット
RAM	8GB (8GBx1) DDR5 DIMM 4800MT/s
拡張スロット(標準)	ロークロフファイルx16 PCIe×1スロット ロークロフファイルx1 PCIe×1スロット M.2 PCIe x1-2230×1スロット (for WLAN) M.2 PCIe x4-2280×1スロット (for storage)
OS	Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 Value
ビデオコントローラ	インテル® UHD グラフィックス 770
外部ポート	USB Type-C 3.2 Gen2×1(前面1) USB3.2 Gen2×3(前面3)、USB3.2 Gen1×3(背面3) USB2.0×2(背面2) DisplayPort 1.4a (DP++) ×1 HDMI 1.4×1(プロセッサー内蔵グラフィックス) マイク・ヘッドフォン コンポジタック×1 ラインアウト×1 シリアルポート 選択ポート: HDMI 2.1
ネットワーク	インテル® I219-LM ギガビットネットワークコネクション (1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T Wake-on-LAN対応)
HDD	256GB SSD (M.2 NVMe PCIe Value)
光学ドライブ	DVDライター
付属品	同梱ドキュメント、電源コード 3-2極アース付変換アダプター、タワースタンド USB 320K キーボード (日本語) USB 320M 光学マウス
電源ユニット	240W 80PLUS Platinum認証電源ユニット (電源変換効率92%以上)
寸法(HxWxD)	270×308×95 mm
重量	約4.38kg (タワースタンド含まず)

画像保管システム要件

PACSサーバ内に保存されているデータを以下のフォルダに自動的に分類することが可能であること。

- (1) 本日の検査
- (2) 本日の検査:モダリティ別
- (3) 最近1週間の検査
- (4) 最近1週間の検査:モダリティ別
- (5) 全検査
- (6) 全患者

分類された患者や検査をリスト表示できること。

患者リストには「患者ID」「患者氏名」「性別」「生年月日」を表示できること。

検査リストには「患者ID」「患者氏名」「オーダー番号」「モダリティ」「検査項目」「検査日時」「画像枚数」「検査ステータス(予約、到着、レポートあり)」を表示できること。

リストに表示された検査を各項目でフィルタリング(検索)できること。

リストに表示された検査を各項目でソート(並べ替え)できること。またソートは第3ソートまで可能なこと。

リストの内容をXML形式やCSV形式で出力できること。

設定したフォルダに新しい検査が追加されたときに通知できること。

リスト上に検査のサムネイル画像を表示できること。

リストで選択した検査画像を表示できること。

検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。

PACS上でエクスポートした検査画像をオフライン状態でPACSビューワ同等機能のビューワにて参照できること。

患者に対するテキストメモを保存/表示できること。またメモを作成する際はユーザごとの定型文を利用できること。

患者に対するドキュメントを保存/表示できること。

過去検査リストから検査レポートを表示できること。

ユーザおよびモダリティごとにあらかじめ設定された表示フォーマット(以下、読影プロトコル)に従いシリーズ画像をスタック/タイル表示できること。

読影プロトコルではシリーズ表示順、シリーズ表示レイアウト、イメージ表示レイアウト、過去検査(最大6検査)、過去シリーズ画像を指定できること。

読影プロトコルでシリーズ表示レイアウトを指定する際、検査内のシリーズ数に応じて最適にレイアウトを変更する自動レイアウト機能を選択できること。

読影プロトコルは複数登録でき、検査画像表示後にユーザが切り替えできること。

読影プロトコル適用後に表示される画面(以下、プロトコルステップ)が複数にわたる場合、前後および任意のプロトコルステップに切り替えできること。

読影プロトコルをユーザがモダリティごとに設定できること。

現在表示しているレイアウトを元に読影プロトコルを設定できること。

検査画像表示時に患者情報パネル(患者番号、患者名、性別、検査時年齢、検査日、検査項目群、オーダ番号)を表示できること。

検査画像表示時に同一患者の過去検査リストを表示できること。

過去検査リスト内に複数のPACS(SYNAPSE)サーバの検査を表示できること。

過去検査リスト項目には「検査日」「モダリティ」「検査項目群」「レポート、メモのあり/なし」を表示できること。

過去検査リストを各項目でソートできること。

画像保管システム要件

過去検査リストをモダリティで絞り込みできること。その際、複数のモダリティを指定できること。

過去検査リストで選択されている検査を現在表示されている検査に追加して比較表示(最大6検査)できること。

比較表示の際、比較前の検査画像を残したまま、画面内の別タブに比較表示できること。

過去検査リスト内の検査数が多い場合、リストをスクロールするのではなくリストおよびサムネイル領域を拡張表示して検査およびサムネイルを選択できること。

過去検査を現在表示されている検査に追加して比較表示する際、現在検査に施した処理(W/L値、拡縮、パンなど)が初期化されないこと。

検査画像表示時にシリーズ画像のサムネイルバーを表示できること。

サムネイルバーには過去検査リストで選択されているすべての検査のサムネイルが表示できること。

サムネイルバーに表示するサムネイルの行数を指定できること。

サムネイルバーのサムネイル上でシリーズ画像をスタック表示できること。

サムネイルバーにてシリーズ番号、シリーズ情報、画像枚数を表示できること。

サムネイルバーにて表示中/表示済/未表示/フォーカスありのシリーズ画像を識別できること。

サムネイルバーを画像表示モニタごとに表示し、それぞれのモニタ内で選択した検査画像のサムネイルを表示できること。

過去検査リストおよびサムネイルバーを非表示にできること。

過去検査リストおよびサムネイルバーを表示するかどうかをユーザおよびモダリティごとに設定できること。

シリーズの表示順をThinスライスシリーズ、Thickスライスシリーズ、スカウト画像シリーズなどの塊の順で表示できること。

サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ＆ドロップ、ダブルクリックしてシリーズを上書き/挿入表示できること。また、ドラッグ＆ドロップの際に、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ＆ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。

サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ＆ドロップする際に、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ＆ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。

シリーズ画像のサムネイルをドラッグ＆ドロップしてシリーズを上書き/挿入する際、複数のシリーズを指定できること。

シリーズ画像のサムネイルをドラッグ＆ドロップしてシリーズを上書き/挿入する際、同一方向のシリーズに対して、スライスおよびFOV位置を自動的に合わせることができること。

シリーズ画像の操作によりシリーズをコピー/移動/入れ替え/削除して表示できること。

マス目を塗りつぶす形式にてシリーズの表示レイアウトを変更できること。

検査に含まれるすべての画像を1シリーズ(全画像シリーズ)として表示できること。

シリーズ画像内で「前シリーズ」「次シリーズ」「シリーズ一覧」を指定してシリーズを切り替えできること。

選択したシリーズのみをワンアクションで適切なレイアウトにて表示し、さらにワンアクションで元のレイアウトに戻せること。

シリーズ内に複数のサブシリーズが含まれる場合、画像向き・間隔および任意のタグ値を利用して、シリーズを分割して表示できること。

検査内の複数のシリーズを結合して1つのシリーズとしてビューワ上に表示できること。

同一シリーズのThinスライス画像とThickスライス画像が存在する際に、ビューワ上でワンボタンでThin／Thickスライスシリーズの表示を切り替えできること。

CTの肺野条件と縦隔条件のシリーズが存在する際に、ビューワ上でワンボタンで肺野／縦隔シリーズの表示を切り替えできること。

画像保管システム要件

シリーズ画像に対して、以下の画像操作がされること。
 階調変更、拡大・縮小、移動、ページング、部分拡大(虫めがね)
 左右反転、上下反転、左右90度回転、180度回転
 画像フィット表示、ピクセル等倍表示、被写体フィット表示

CTやMRのシリーズ画像に対して任意角度の左右回転がされること。

シリーズ画像に対して、以下の画像処理操作がされること。
 階調プリセット処理、白黒反転処理、シャープネス/肺強調処理、ぼかし処理、FCR画像パラメータ処理

W/L値の数値入力によりシリーズ画像の階調を変更できること。

画像上で任意に領域を指定後、領域内で最適なW/L値を計算して画像全体にそのW/L値を適用できること。

階調プリセットはユーザおよびモダリティごとに最大9個までユーザが設定できること。

マウス操作による階調変更時のW/L値増減方向および変化速度をユーザごとに設定できること。

モノクロ8bit画像に対して階調を変更できること。

RGB画像に対して明るさ/コントラストを変更できること。

拡大・縮小率の数値入力によりシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。

拡大・縮小率プリセットを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。

画像初期表示時の表示倍率を指定できること。

マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小時の上下方向および変化速度をユーザが設定できること。

マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小の中心を、ビューの中心もしくはマウスポイントの中心のいずれかをユーザごとに設定できること。

マウスホイールを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。

シリーズ画像をページングするためのスライダーバー機能を利用できること。

マウス操作によるシリーズ画像ページング時の画像読み飛ばしON/OFFおよび変化速度をユーザごとに設定できること。

マウスホイールの回転速度および回転幅に応じて、シリーズ画像ページングの変化速度をユーザごとに設定できること。

シリーズの最初および最後の画像へワンアクションで移動できること。

シリーズ画像をシネ表示(昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整)できること。

シリーズ画像をシネ表示する際、シネ操作パネル(ボタンアイコンなど)を使用せずにマウス操作のみで昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整ができること。

DICOMフレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。

DICOMフレームレートを考慮して動画像をシネ表示する際、表示速度を優先(画像描画が追いつかない場合、画像を飛ばす)させて再生できること。

複数の動画像シリーズを同時にシネ表示できること。また、シネ表示をストップさせずに階調変更、拡大・縮小、移動の画像操作ができること。

シリーズ画像を逆順にソートできること。

シリーズ画像を任意のDICOMタグを利用してソートできること。

マウスホイールを利用してイメージ表示レイアウト(タイル表示のレイアウト)を変更できること。

シリーズ画像をダブルクリックすることで1モニタに対してシリーズ表示レイアウトを1×1表示でき、再度ダブルクリックすることにより1×1表示を解除できること。

画像保管システム要件

画像上でマウスポイントを移動することで、FORが同一で別シリーズの画像上の同一位置に自動的にポインタが表示され3次元動作できること。
画像にブックマークを設定しブックマーク画像のみを表示できること。
画像のDICOMヘッダ情報を一覧で表示できること。
2つのシリーズを重ね合わせてサブトラクション表示できること。
MRI拡散強調画像を使用してADCマップを表示できること。また、2種類のb値の画像から他のb値のComputed DWIを作成できること。
計測領域内のCT値(画素値)をヒストグラム表示できること。
画像上で以下のアノテーションを付加・計測できること。 画素値、距離、角度、テキスト、矢印、矢印+テキスト、フリーハンド、線分比、橢円ROI、正円ROI、矩形ROI、多角形ROI、フリーハンドROI、フリーハンド長さ
角度を計測する際、異なる画像間においても計測できること。
任意の行×列の画素値マップを表示できること。
領域の自動認識により距離計測を自動補正できること。
領域の自動認識によりアノテーション(多角形ROI)をビューワ画面内で(別画面を起動せずに)付加・計測および修正できること。
領域の自動認識により3Dアノテーション(VOI)をビューワ画面内で(別画面を起動せずに)付加・計測および修正できること。
領域の自動認識による3Dアノテーション(VOI)の体積を表示できること。
交わらない2直線の角度を計測できること。
4点および6点計測法を用いて、2つの線分の長さおよび比率を計測(心胸隔比計測)できること。
臓器認識を利用して自動で心胸隔比を計測できること。
4点計測法を用いて、関心領域の幅(最大短径)を計測できること。
Evans Index(頭部CT、頭部MR)を計測できること。
Cobb角、Baumann角、Sharp角、CE角、AHI、AHI(角度)、FTA(左右)、適合角、外反母趾角を計測できること。
横倉法、Bohler角、Meyerding、椎体高さを計測できること。
計測途中においても計測値が表示されること。
特定のキーを押しながら計測することで、計測終了時に計測結果を表示しないようにできること。
画像のPixel Spacingを補正して計測できること。
Pixel Spacingを含まない画像に対して値を設定して計測できること。
PET画像のSUV Max値、SUV Peak値、MTV値、TLG値を計測できること。またMTV値を求める際に、絶対値を使用するか相対値を使用するかを設定できること。
シリーズ画像に付加したアノテーションを別のシリーズにコピーできること。
シリーズ画像に付加したアノテーションを同一シリーズ内の全ての画像にワンアクションでコピーできること。
アノテーションの計測結果を文字列としてクリップボードにコピーできること。
ROIアノテーションにおいて「面積」「平均値」「平均径」「標準偏差」「最大値」「最小値」「長径」「短径」「外周」「中央値」「長さ」を表示できること。

画像保管システム要件

ROIアノテーションで表示する項目および値の小数点以下の桁数をユーザごとに設定できること。

シリーズ画像に対して、番号ラベルのアノテーションを付加できること。

アノテーションを表示/非表示できること。

アノテーションの色およびフォントサイズをユーザごとに設定できること。

保存されたアノテーション、拡大、W/L変更を全端末で復元できること。

DICOMヘッダ情報を画像上にオーバレイ情報として表示/非表示できること。

オーバレイ情報として表示する項目をユーザ、モダリティおよびAEタイトル(+SOPクラス)ごとに任意にユーザが指定できること。

オーバレイ情報を匿名化して表示できること。

画像の表示枠に応じてオーバレイ情報のフォントサイズが変化すること。

オーバレイ情報の色およびフォントサイズを設定できること。

DICOM6000番台のオーバレイ情報を表示できること。

表示中の画像のリファレンス線を表示/非表示できること。

リファレンス線に画像番号が表示されること。

リファレンス線を表示する際に「最初と最後とアクティブ」「アクティブのみ」を選択できること。

シリーズの異なる複数の画像のROI計測値(Time Intencity Curve含む)、画素値、面積、長さをグラフ表示できること。

任意の2つのシリーズ画像をフュージョン表示できること。

任意の2つのシリーズ画像の直行3断面+フュージョン+全MIP画像をワンアクションで表示できること。

フュージョン表示時に上画像のみを移動およびページングできること。

マニュアルにて病変トラッキング機能を利用できること。

画像にモダリティLUTを適用できること。

画像にVOILUT(Sigmoid含む)を適用できること。

画像を拡大・縮小表示する際の画素補間方法を指定できること。

画像上に矩形を指定してシャッター表示できること。

DICOMシャッター情報を表示できること。

画像のPixelPaddingValueを標記できること。

端末のモニタ種別に応じてLUTが設定できること。

疑似カラー表示できること。

先頭画像から指定した枚数の画像を重ね合わせてMIP、MinIP、AveIP(Raysam)表示(畳み込み表示)できること。

マウスの右、左、中、左右(両押し)ボタンのそれぞれに画像操作機能を割り当てることができること。

画像操作モードの切り替えおよび画像操作をキーボードショートカット、コントロールバー(アイコンバー)、右クリックメニューにて実施できること。

画像保管システム要件

キーボードショートカット(ファンクションキー含む)、コントロールバー(アイコンバー)、右クリックメニューはユーザごとに設定できること。
画像操作モードの切り替えおよび画像操作をボタンメニュー(ツールボックス)にて実施できること。
画像を表示した際の画像操作モードを「前回値」もしくは「初期値」に設定できること。
画像操作中に画像操作モードをワンアクションで「前回値」もしくは「初期値」に戻せること。
1回の操作で複数の操作を行うプリセット(複合コマンド)を作成し、それをメニュー・ショートカットキーから実行できること。
画像の全体もしくは選択した領域をBitmap形式にてクリップボードにコピーもしくはファイルに出力できること。
選択したシリーズ画像をJpeg/Bitmap/Png/Tiff形式にてファイルに出力できること。また、出力時に複数の画像を1枚の画像として出力できること。
選択したシリーズ画像をPPT形式にてファイルに出力できること。
シネ表示された画像をAVIファイルに出力できること。
表示中の検査をDICOM画像としてCD/DVD/ローカルディスクなどに出力できること。また出力時に患者情報を匿名化できること。
表示中の画像をWindowsプリントできること。
表示中の画像をDICOMプリントできること。
フュージョン画像、再構成画像を別シリーズとしてPACS上に保存できること。
以下のシリーズ画像操作に対してシリーズ間の連携ができること。 ページング、拡大・移動、階調・画像処理、虫めがね、回転・反転、アノテーション、領域選択、タンブリング(回転)、レンダリング
拡大・移動連携時に基準位置をずらして移動操作できること。
シリーズ間の各連携設定をユーザごとにON/OFFできること。
連携するシリーズを任意に選択できること。
連携するシリーズを同一検査、同一方向の条件にて自動で選択できること。
連携するシリーズを複数グルーピング(最大10)できること。
ページング連携時にDICOMタグ情報のスライス位置にて自動で同期表示できること。
ページング連携時にビューワ画面内で(別画面を起動せずに)間引いたスライスによる臓器認識を利用して自動でスライス位置合わせできること。
ページング連携時にスライス方向、スライス位置に関係なく画像を1枚ずつ同期表示できること。
スライス厚が異なるシリーズをページング連携する際、一番近いスライス位置の画像を表示できること。
ページング連携時に手動でスライス位置を合わせて同期できること。
ページング連携時にキーボードショートカットのキーダウンで同期を解除し、手動でスライス位置を合わせた後、キーアップで同期を再開できること。
ページング連携はシネ再生時にも動作すること。
選択されているシリーズのFOV位置をワンアクションで合わせることができること。
選択されているシリーズの階調・画像処理をワンアクションで合わせことができること。
DICOMタグ情報のスライス位置を利用して、複数シリーズ間で三次元的に同じ位置のイメージおよびポインタを表示(インテリリンク)できること。
シリーズ画像をMPR、MIP、MinIP、AveIP(Raysam)表示できること。

画像保管システム要件

MPR、MIP、MinIP、AveIP画像の直行3断面をワンアクションで切り替え表示できること。

MPR、MIP、MinIP、AveIP画像のオブリーク断面を表示できること。

MPR、MIP、MinIP、AveIP画像のダブルオブリーク断面を表示できること。

MPR、MIP、MinIP、AveIP表示時に、オブリーク断面+直行3断面の4分割表示に切り替えできること。

MIP、MinIP、AveIP画像のスラブ厚をショートカットおよびマウスホイールにて変更できること。

MIP、MinIP、AveIP画像のスラブ厚を数値入力して変更できること。

MIP、MinIP、AveIP画像のスライス間隔を変更できること。

レンダリング条件(例:MIP-サジタル-5mm など)のプリセットを利用できること。

任意断面画像をタンブリング(回転)させる際、回転中心を指定できること。

CPRを表示できること。

ユーザがある端末で行ったビューワの設定を、ユーザ自身で別の端末にも反映できること。

ユーザが行ったビューワの設定をエクスポートし、別のユーザや別の施設でインポートできること。

画像に対して行った操作を「元に戻す」「やり直す」「すべて元に戻す」「すべてやり直す」ことができること。

表示中の検査の表示状態(以下、スナップショット)を一時的に保存し、再復帰できること。

検査を閉じる際にスナップショットを自動で保存するかどうかを指定できること。

スナップショットを保存する際にタイトルを指定できること。また、再復帰時に保存されたタイトルを指定して表示できること。

ユーザがある端末で保存したスナップショットをサーバにアップロードし、別の端末にて再復帰できること。

スナップショットのリンクファイルを保存できること。

過去検査リスト、サムネイルバー、シリーズ画像上で検査日が異なる検査を識別できること。

画像表示中に新たに画像が追加された場合にビューワ上で認識できること。

ビューツールバー上に表示するアイコンをユーザが任意に設定できること。

キー画像貼り付け時のキー画像を含むシリーズおよび手動画像選択にて、自動削除されるシリーズ画像を保護できること。

現在画像を表示中に、過去に計測された結果部分に対して部位の自動認識を行い、現在画像、前回過去画像、ベースとなる過去画像を自動的に並べて表示できること。並べて表示された画像の計測結果についてはグラフ表示による経時変化を確認できること。

ビューワからオンラインヘルプを利用できること。

ビューワからチュートリアル画面を起動してインタラクティブな操作マニュアルを利用できること。

マンモCAD結果を表示できること。

マンモ画像の拡大・移動・階調変更の操作が左右の画像で連動できること。

左右マンモ画像の乳房領域の中心を合わせて表示できること。

マンモ画像表示時の胸壁位置および表示倍率をユーザごとに設定できること。

マンモ画像表示時の水平方向に対する胸壁位置合わせを一時的にOFFにできること。

画像保管システム要件

マンモ画像表示時に上下方向は3つ(上中下)、左右方向は2つ(胸壁側、ニップル側)の表示位置をユーザごとに指定できること。(QuadrantView相当の機能)
虫めがねの表示サイズをユーザごとに変更できること。
MG For Processingの画像に対して画像処理パラメータを適用できること。
マンモ画像の上下部分および左右部分をマスキング表示できること。また左右部分をマスキングする際、MLOの画像に対しては、大胸筋の角度に並行にマスキング表示できること。
検査リスト上で指定した検査またはサムネイルバー上で選択したシリーズ(US、MRなど)を別ウインドウで画像表示できること。
MGおよびBTモダリティ種のマンモトモシンセンス画像を表示できること。
マンモトモシンセンス画像に対してMIP処理できること。
先頭画像から指定した枚数の画像を重ね合わせてMIP表示できること。
歯科用読影プロトコルを利用して標準法(10枚法、12枚法、14枚法)、咬翼法、咬合法、パノラマ画像、汎用(1段、2段)、小児8枚法、セファロ画像を表示できること。
歯科用読影プロトコルを利用して歯部位別に時系列表示(マトリクス表示)できること。
同一歯部位画像の過去比較表示をワンアクションで実施できること。
現在画像を表示中に、過去に計測された結果部分に対して部位の自動認識を行い、現在画像、前回画像、ベースラインとなる過去画像を自動的に並べて表示できること。その際、現在画像で計測された結果は、過去に計測された結果をもとに自動的に対応付けができること。
ベースラインとなる過去画像は計測結果ごとに指定できること。
並べて表示された画像の計測結果についてはグラフ表示による経時変化を確認できること。
表示したグラフをキャプチャして、レポートに貼付けできること。
ビューワ上で計測した値を、レポートの所見/診断欄の右メニュー上から取り込みできること。
ビューワ上にあるマウスカーソル位置をそのままの状態で、レポート記入欄にワンアクションでフォーカスを移動できること。
ビューワ上にレポート記入ウィンドウを表示し、ビューワ上でレポートを記入できること。その際、レポートの記入内容は同期して表示されること。
ビューワ上でフォーカス中の(過去)シリーズ画像をワンアクションで指定して、レポート記入画面の過去レポート一覧上に該当のレポートを表示できること。
過去レポートに貼り付けられているキー画像を指定して、ビューワ上に該当のシリーズおよびスライスを表示できること。
スナップショット保存時にリンク情報を生成後、レポートシステム上で保存し、そこからスナップショットを起動できること。
PACSを利用できるPC端末は、PACS専用端末を含めて18台以上であること
オンラインでVerUPを実施可能であること
サービスサポートセンターにて24時間のコールサポート対応を実施可能であること
静岡市内、浜松市内の両方にサポートセンターを有する事
SYNAPSEおよびDICOMサーバーに対して、患者名、検査日、モダリティの検索条件でデータ検索を行えること。
複数サーバーへの検索が行えること。
SYNAPSEおよびDICOMサーバーに対して行ったデータ検索結果を表示できること。
検索条件に一致した検査について、その検査の一定期間前の検査を自動的に検索できること。
検索結果から検査の画像のサムネイルを表示できること。

画像保管システム要件

出力予定のファイルサイズ(概算)を表示できること。

SYNAPSEおよびDICOMサーバーに格納されたDICOM画像を取得できること。

SYNAPSEおよびDICOMサーバーから取得したDICOM画像をメディアへ出力できること。

SYNAPSEおよびDICOMサーバーから取得したDICOM画像をフォルダへ出力できること。

出力したメディアはIHEのPDI(Portable Data for Imaging)統合プロファイルに準拠すること。

出力したメディア内にDICOMビューワを同梱していること。

搬送先のPC上で特別なビューワを必要とせず直接閲覧が行えること。

外部から持ち込まれたメディア内のDICOM画像を読み込めること。

外部から持ち込まれたメディア内のDICOM画像を読み込んだ結果を表示できること。

外部から持ち込まれたメディア内のDICOM画像の患者情報を変更できること。

外部から持ち込まれたメディア内のDICOM画像をSYNAPSEに格納できること。

JPEGファイルやBMPファイルを読み込み、DICOM画像へ変換しSYNAPSEおよびDICOMサーバーに格納できること。

SYNAPSEからDICOM Q/Rで取得した情報を基に、ラベルを作成できること。